

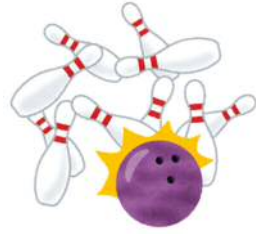
## リレー エッセイ

職員自身もいつ自分に順番が回ってくるかが分からない、ドキドキのコーナー。職員も知らないあの職員の内側をのぞけると、職員間でひそかな人気です♪

### 「私のプチ自慢」(石塚職員からのリレーテーマ)

私のプチ自慢ということでお題を頂いたのですが、私は球技が好きで今まで色々な球技をしてきました。小学生からの野球に始まり、バスケ、卓球、バレー、テニスなど趣味的な感じで行っていました。その中でもプチ自慢したいのはボーリングです。高校生の頃にハマり、週3くらいで通っては毎回10ゲームくらいやっていました。通い続けた結果、その当時はアベレージ180のハイスコア240でした。高校を卒業して仲間も進学や就職し、自然と行く機会がなくなっていったので、今ではスコア150にいくことすらほとんどなくなってしまいました

が、何も考えずその日その日を全力で楽しんでいた青春の思い出です。これが私のプチ自慢です。



ぴあん 山本翔平

### 「おすすめバンド」(橋本職員からのリレーテーマ)

好きな歌手や、おすすめの曲って誰もが少なくとも1つや2つあるものですね・・・。

私は、音楽を聴くことがないのでこのテーマをもらってから、バンドが好きな友達に協力してもらいました。「sumika というバンドは、聴きやすくいい曲があるから一度聴いてみて。」とアドバイスをしてくれました。

実際に lovers という曲を聴いてみると、明るいテンポで楽しい雰囲気が伝わってきて、なんだか幸せなひとときを過ごせたように感じました。どんなメンバーで構成されているのかやバンド名の由来、歌詞が表現していることなどが全く分からない私でも楽しむことが出来ました。これを機会に、音楽って素敵な気持ちになれるといいものだなあと思いました。

これから少しずつ様々な音楽を聴き、楽しみを感じていきたいと思えます。

きら 出崎美貴



### 「最近食べた美味しかったもの」

(小山職員からのリレーテーマ)

“笹団子”でしょうか。今年のお盆に帰省した際に何気なくテーブルに置いてあった笹団子。手を伸ばして一口食べた瞬間“あれっ!?”



これって…??”と母の顔を見ると

母もわたしの顔を見てにんまり。

昔母方の祖母が毎年作ってくれていた笹団子にそっくりだったのです。よもぎがたくさん入っていて、少しお塩が効いていて、サイズも大きめで…本当にそっくり!懐かしい(´o`)

でも祖母はもう車椅子で笹団子なんて作れるはずもなく…結局その笹団子はたまたま姉がご近所さんから頂いたものだと判明。そして姉も同じく懐かしくなり実家に持ってきたとの事でした(笑)

大きなたらいの中で何度も何度も踏んで作っている祖母の姿。その横で私達もはしゃぎながら真似して踏み踏み♪ 一気に子どもの頃の記憶が蘇り、皆で笑顔になりました ☺♪

きら 渡辺由美



山本(翔)職員からのリレーテーマは「私って実は...」、出崎職員からのリレーテーマは「最近ハマっていること」、渡辺(由)職員からのリレーテーマは「心が温まる瞬間」です。次回もお楽しみに!



### お知らせ

以下の通り職員の人事異動がありましたのでお知らせ致します。

#### 退職

関 広美

松矢 磨理子

～今までありがとうございました～

# りとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる  
障害福祉事業部りとるらいふ  
発行日: 2017年9月

夏の暑さも少しずつ和らぎ、朝夕は少し肌寒く感じる程。空を見上げると秋の雲がたくさん広がっており、もうすっかり秋を感じます。今年の夏は例年に比べて雨が深い夏だったような気がしますが、皆様は今年の夏をどのように過ごされたのでしょうか? 「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」と秋も楽しいことが盛りだくさん。一緒に楽しんでいきましょう♪



## 夏の思い出フォトアルバム ♪

今回の9月号では、りとるらいふの夏の思い出をご紹介します。児童部は夏休み、成人部もイベント盛りだくさんでそれぞれが夏を満喫しました! それでは“夏のフォトアルバム”をご覧ください♪

### 【きら】

8月26日(土)に保護者の皆様に来所いただいてBBQ交流会を開催しました。



この日のために、中庭に手作りの石釜を製作しました。その石釜で、保護者より調理いただいたピザを焼き、大成功となりました。



お母さん達から「始めてピザを作るから・・・」との声が聞かれましたがプロ顔負けの美味しさでした(\*^^)v

## 角投手、鹿取投手と「真似ること」

障害福祉事業部りとるらいふ 相談支援センターらく 課長 江部健幸

私と野球のつながりは小学校4年からである。たまたま友人が少年野球に入る、と言ったのに便乗して入団した。今考えると、始めたころは本当にへたくそで、軟球が怖くて仕方がなかった。これを克服すると、逆に野球は楽しくて仕方がなくなった。友達と遊ぶのも空気がボールとプラスチックバット、少年野球の早朝練習も休まず夢中だった。もちろん観るのも好きで、桑田・清原に沸いた小学校時代の甲子園中継を視聴しすぎてPL学園の校歌が歌えるようになった。また、プロ野球中継を見ては父と巨人の采配についてあてもない、こうでもないとの激論を交わした。当然中学校の部活も野球部を選んだ。だが、中学最後の大会で背番号をもらえず、コーチとしてベンチに入るという多感な中学3年生の当時としては「人生の終わり」的な残酷な経験をさせていただく。以来、二度とするまいと距離を置いていた「野球」。最近少年野球を通して、またプレイをする機会を持ち、「やっぱり楽しいなあ」なんて思ったりして…。

話は変わるが、私の好きな雑誌に「Number」というスポーツノンフィクション雑誌がある。その中に安倍昌彦さんというライターの方がいる。簡単にご紹介すると、早大でも野球を続け、「流しのブルペンキャッチャー」として、ドラフト候補生や果ては中学生の球も受けて雑誌「野球小僧」にコラムを書いている方である(らしい)。

この方の書いた7月19日付「マスクの窓から野球を見れば」というコラムの『高校球児がテレビで野球を見ない? 「他人の野球」に興味がない子供たち。』を読んだ時に、すごく共感し、自分の野球人生や仕事のことも振り返る機会をいただき、それが冒頭の野球少年だったころを回顧させたのだ。

内容を紹介しますと、安倍さんはいつも高校野球の監督に取材をする際に、「チームで一番の野球小僧は誰ですか?」と尋ねることにしているそうである。監督からの回答は悩んだ後に、1人の選手の名前を挙げてくるそうで、その時に「どんな野球小僧ですか?」とさらに人間像も尋ねると

「野球が好きで、最初から最後までグラウンドにいる、いつも何かしている」といった答えが返ってくるらしい。

だが、安倍さんはいつもちょっと違った野球小僧を期待しているそうである。それは「歩く選手名鑑」のような野球の虫だとのこと。最近の高校球児はプレイは一生懸命するが、テレビで野球を見ないと嘆く高校の監督さんたちが多いそうである。安倍さんはコラムの中で、「人の野球を見ることは、自分が野球をすることと同じくらい大切だ」と説いている。

理由は知らず知らずのうちに野球のワザを学び、野球への興味を深めてきたから、とのこと。

言われてみれば、確かにKKコンビや松本、篠塚、クロマティなど、いつもマネして遊んでいた。時に打席では「自分は〇〇」みたいに暗示をかけて、イメージをして打席に入ったものである。特に巨人の角投手や鹿取投手のグラブの位置や球を離すタイミングなどは、相当研究をした記憶がある。今でも上手に真似る自信があるくら

いだ。果ては広島の本拠監督のベンチでの振る舞いまで真似したりして。

何が言いたいかというと、興味を持って、見て、真似るということは、何事においても上達の大事なプロセスではないか、ということである。

これを仕事に置き換えてみると、私の仕事の技術も「見る」「真似る」「検証する」「自分流にアレンジする」という、少年野球時代と同じプロセスを踏んでいるのである

このことを考えたとき、私はあるケース対応を思い出していた。

相談員になって間もなく、対応が難しい相談者の担当となった。当時まだ相談支援事業所が法律で制度化されてすぐで、モデル事業としてその方に関わってくれていた別事業所の相談員の方と一緒に関わることとなった。関係のできていない私はずっとベテラン相談員の方の所作、表情、言葉の発し方をとにかく「観察」した。帰りの車中では、何故あの時ああいう発言をしたのか等質問攻めにした。半年ほどして、自分一人に関わる機会が出てきた際、意識したのは先輩相談員に「なり切る」ことだった。もちろん年齢や関係構築は違うので、そこに配慮しながら「〇〇さんならどう返すだろう」と考えながら対応した。結果、相談者の方とも関係ができた、という体験である。

以前「真似る」からの派生語が「学ぶ」だと学んだ。やはり、人間のイメージする力には全く材料がない中では限界があるので、上達の早道として、身近なお手本を「真似る」ことは非常に有効だと感じる。

野球も仕事もそうだが、こういう時にはこう動く、という具体的なモデルがあるとイメージが広がり、動きや相手の問いかけに対しての対応等知らず知らずのうちに身についていくのではないかと考えている。

「真似る」というと、ややマイナスなイメージがあるが、物事の本質をとらえてなければ真似ることはできない、と自分は先述の相談の件で実感した。以来、「この人のここは凄い!」と感じたら、躊躇せず真似しようと考えている。考え方についてもそうで、「これはよい!」と感じた考え方は、できるだけ取り込むようにし、一つの考え方にとらわれないことを意識している。「個性」や「自分の考え」は逆にいつも抑えるように、と自分に言い聞かせている。先述の野球の話でも、他人がやることに関心が持てなければ、自分の技術の上達は無いんじゃないかな、なんて思ったりもする。

そんなことを考えながら、野球中継を見たいなあ、と思っているが、思春期に突入している2人の野球少年は父と野球を見ることは好まないらしく、我が家に一台しかないテレビにはいつも姉妹がアニメを見ている状況…。

「大谷ってこうやって投げるんだよね…」なんて会話したい、いつも思っている、元「歩く選手名鑑」で、やっぱり野球大好き!な父なのでした。

### 【ららん】



レルヒの森で  
お手伝い頑張りました!

大きいスイカ小さいスイカ  
どっちを割る?



まるでモデル気分?  
IN 谷浜公園

どれくらい  
叩けば割れる  
かなあ??

### 【にこ】



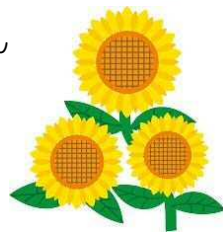
「ミニライブ」  
ギターと太鼓でミニライブ♪  
みんなで手拍子♪



「みんなでアイスクリームを  
食べに行ったよ!」



「草取り」  
プラザの職員さん  
一緒に草取りを  
頑張ったよ!



「砂防公園」  
暑さも忘れてみんなで  
川遊び♪



### 【おまけ】 ~編集委員の夏の思い出~



毎週末は娘をこどもプールに連れて行くのが夏のお決まりです。監視のおじさんや同じ歳の子どもを持つお母さんたちと話したり、普段関わりのない子と娘が遊ぶ姿を見るのが私の楽しみでした◎ 今年もお世話になりました。また来年!!

片桐友紀



標高1170m!  
真夏なのにとっても涼しい雲海  
の見えるソラテラス!この日は  
見えませんでした(泣)

丸山由希